

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500394
法人名	社会福祉法人宝集会
事業所名	グループホーム集い
所在地	愛媛県新居浜市東田3丁目乙11-86
自己評価作成日	平成 29 年 1 月 10 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 29 年 2 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にもあるように『心』から『歓』びあえる楽しく和やかな処になるよう、入居者様のペースで、日々の生活を支援させていただいています。
また、運営推進会議には多くの地元有識者の皆さんや地域包括支援センターの職員が積極的に参加して下さっており、行事報告や困難事例、事故報告に対し多くの助言をいただき、その助言を日々の支援に反映させることにより、サービスの質の向上につなげることができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

風光明媚な高台にある事業所は、周りの景色が美しく心癒される。自治会に入会し、地域の草刈りには男性の職員が積極的に参加し喜ばれている。運営推進会議の参加者から、地域貢献等にかかる意見等が出され、管理者はそれを真摯に受け止めステップアップを目指し次の企画に活かせるよう努めている。職員は年齢差があっても仲良く和気あいあいと、利用者に対しても親しくかつ礼節を持って対応し、楽しく過ごせるよう支援している。代表者や管理者は職員からの要望等があれば前向きに検討し、安心して安全な介護ができるよう配慮がある。利用者一人ひとりをよく観察し、良いところを見つけ何を必要としているのか利用者視点で考え、家族の大切な要望も考慮し介護計画に盛り込むなど、残存能力を活かし望みが叶えられるようなケアを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム集い

(ユニット名)

心ユニット

記入者(管理者)

氏 名

新井 悟

評価完了日

平成 29年 1月 20日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所理念は玄関に掲げ、管理者と職員は理念を共有し、実践につなげるよう心掛け、日々の支援を行っている。 (外部評価) 元施設長が考案した「心からうれしく心から歓びあえる楽しく和やかな処」の理念は、職員はもちろん運営推進会議でも話しており、共有し実践している。2つのユニット名を「心」「歓」にしており、地域との関わりにも力を注ぎ、理念に沿い業務に励んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 開設以来、地元自治会に入会するとともに、自治会活動への職員の参加や地域行事への施設入居者参加を積極的に行うようにしている。 また、今年度より夕涼み会を施設で行い、地域の方をお招きするなど、事業所が地域の一員として受け入れられるよう取り組んでいる。 (外部評価) 高台にある事業所周辺の草刈りと男性職員が草刈り機を持参し行い喜ばれている。地域の方に楽しんでもらえることや喜んでもらえることはないか常に考え、夕涼み会などで自治会との交流が図れるよう計画している。また、とうど祭りに参加したり、敬老会や誕生会ではボランティアによる浪曲や漫談があるなど、利用者が楽しい時間を過ごせる機会が増えるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方からの電話相談や施設見学には随時対応し、入居に至らないケースでも、相談者の不安が少しでも取り除けるよう対応している。 地域の方に向けての勉強会の開催などは行っていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議には多くの地域役員や民生委員の方に参加いただき、事故や施設運営についても多くの意見をいただき、頂いた意見を運営に活かしている。 ただ、前回の指摘事項でもある家族の参加については、思うような参加が得られていないのが現状である。	
			(外部評価) 運営推進会議の参加者からの意見や提案により、ボランティアの訪問や夕涼み会の開催に繋げることができるなど、効果が表れている。出席者の都合に合わせ日曜日の開催にしたり、併設施設のスケジュールと重ならないよう時間差をつけるなど配慮している。業務の都合で職員の参加は困難なため、会議の内容は議事録で確認し共有している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 地域包括センター職員さんには運営推進会議に参加いただき、指導いただいている。 また、市役所にて生活保護受給者の相談等もさせていただくなど、連携を密にとるようにしている。	
			(外部評価) 介護相談員が2か月に1回来訪し、利用者から「心配事や不安はありませんか?」「言いづらかったり、伝えにくいことはないですか?」など聞き取り、書面で報告を受けている。生活介護課より年2回利用者との面接がある。相談に出向くこともあり、課題解決に向け話し合い共に取り組んでいる。市主催の地域貢献や相談等の研修会に参加するようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束については行っていないが、『指定基準における禁止の対象となる具体的な行為』について、全職員が正しく理解するまでには至っていない。	
			(外部評価) 入居間もない利用者は帰宅願望等があり、玄関の施錠に閉塞感や心理的な不安がみられることがあるため、管理者をはじめ職員全員で十分留意し、ドライブをしたり家族と電話するなど、利用者の気持ちが落ち着くよう努めている。また安眠薬を使用の利用者には昼間はなるべく運動してもらうなど、薬の使用を控えるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止については、特に職員数の少なくなる夜間について職員による相互監視を行い、虐待行為が発生しないよう取り組んでいる。 高齢者虐待防止法については、身体拘束同様に全職員が正しく理解するまでには至っていない。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度を利用されている入居者がいる関係で、以前に比べ制度について理解度は高くなったが、詳しく、また正しく理解するには至っていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約までには十分な時間を確保し、家族の不安や疑問点が解消されるよう説明・納得を図っている。 また、改定等についても同様に十分な説明を行うようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置したり、運営推進会議には家族に参加いただけるよう案内をさせていただいているが、意見箱、運営推進会議ともに入居者及び家族の意見反映には活かされていない。	
			(外部評価) 家族の面会時に利用者の状況を伝え、意見や要望を聞いている。「風呂が好きです」「散歩させてください」などの要望がある。遠方の家族には電話で利用者の日頃の様子などを伝えている。受診時など楽な格好の服装を要望する家族の期待に沿えるよう、職員全員で取り組むなど、利用者本位の支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月一回のスタッフ会には管理者も出席し、職員からの意見を聞く場を設け、活かせる意見であれば、運営に活かすようにしている。 (外部評価) 管理者は職員にとって話しやすく相談にも快く耳を傾けてくれるため、働く意欲向上につながっている。休暇を取りやすいよう配慮したり、職員のストレスが極力軽減できるよう事業所全体で取り組んでいる。家族に了解を得て使用しているセンサーマットを即決で購入できるなど、安全安心な介護を実践しやすいよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者及び管理者は、職員個人個人の評価を話し合い、給与水準に反映させている。 また、各職員が向上心を持って働けるように、労働時間等の条件についても話合っている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者や管理者は、職員を愛媛県地域密着型サービス協会主催の研修に主に参加させているが、職員の希望により他主催の研修にも積極的に職員を派遣している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 今年度より、地域密着型サービス協会主催の相互研修に職員参加させるなど、同業者との交流を通じてサービスの質を向上させられるよう取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の事前アセスメントにて、本人の要望・困っていること等の把握に努め、サービス開始の段階で出来るだけ不安なく過ごしていただけるよう関係づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス開始時には、十分な時間を確保し家族の要望や不安に思っていることなどを聞くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居ありきではなく、まず本人と家族が何に困っているかを把握したうえで、本人や家族にとって今何のサービスが必要であるか見極め、利用支援を行うように心がけている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 個々人のレベルに合わせた役割・手伝いをしていただくことにより、本人を介護される一方の立場におかず、共に暮らす者同士、助けあう関係を作るようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族にも協力していただけることはしていただき、本人と家族の関係を大切にしながら、共に本人を支援していく関係づくりを心掛けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の馴染みの店等がある場合は、家族等の協力のもと継続利用を行い、馴染みの場所や人との関係が途切れないよう支援している。 (外部評価) 利用者の重度化が進み、支援が困難になってきているが、昔から利用している理髪店やマッサージ店に行けるよう送迎したり、友人に誘われて四国八十八ヶ所にお参りすることが好きだった利用者の支援に努めるなど、培ってきた人間関係を守りながら断ち切らないよう努力を重ねている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 作業レク等では、本人の能力に応じて役割を分担するなど、入居者同士が助け合い、協力し合えるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用（契約）が終了しても、必要に応じて本人や家族の相談・支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時に思いや希望の把握に努めているが、入居後も家族や知人に情報をいただき、意思の疎通が困難になった場合でも、本人本位の生活が送れるよう常に情報収集に努めている。	
			(外部評価) ごみ集めをしたり、食卓のテーブルを拭いたり朝刊を取りに行くなど、職員が利用者一人ひとりのできることを見守りながら一緒に行っている。利用者が選択できる機会と自己決定できる場面を作っているほか、利用者がストレスを感じないよう席順にも配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前や入居時に本人や家族から情報をいただき把握に努めているが、急いで入居の場合も多く、十分とはいえない場合も多い。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ユニット会等で各入居者について情報を共有し、入居者の現在の状況把握を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画やモニタリングは、ユニット会で出た全職員の意見を参考に計画作成担当者が作成しており、現状に即した介護計画となるよう努めている。	
			(外部評価) 家族からの意見として「怪我をしないようにしてほしい」「仲良く楽しく過ごしてほしい」などある。介護計画は、利用者とかかわりの深い職員が計画作成担当者になり作成している。月に1度の全体会と各ユニット会で利用者の最近の状況等を報告し、見直し等について検討している。介護計画は職員全員で共有し、言葉や表情、しぐさなど個別記録として残している。管理者は現場を大切に考え、気づきなど話し合う機会を多く持つようにしており、協議内容については申し送りノートに記録し共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日常の個別記録を基に申し送りをを行い、職員間で情報を共有するとともに、実践や介護計画につなげている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の希望があれば、個別の買い物や馴染みの店への外出支援、冠婚葬祭等への送迎など臨機応変に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のイベントには参加し、地域の一員として楽しい生活が送れるよう支援しているが、地域資源の把握・活用については十分とは言えない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医は入居時に変更するのではなく、継続して いただいている。また、基本的には受診は家族をお願いし ているが、必要に応じて職員が同行し、適切な医療が受けら れるように支援している。	
			(外部評価) 重度の利用者が多いため、職員が付き添い受診しており、 結果は家族とも共有している。歯科は状態に応じて受診し 往診も可能である。定期的な血液検査、眼科や皮膚科など 必要に応じ適切な医療が受けられている。インフルエンザ の予防接種や手洗い、うがいなどを励行し感染症予防にも 努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常勤職員として看護師を配置しており、職員の気づきや相 談にすばやく対応し、個々の入居者が適切な看護を受けら れるよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入居者が入院した場合は、情報提供票を病院へ提出し、本 人が安心して治療に専念できるように病院関係者との情報 交換や相談に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時には重度化した場合や終末期の対応について、事業 所として出来る事、出来ない事を十分説明し同意書をいた だくようにしている。	
			(外部評価) 「入居者の重度化した場合における対応に係る指針」に基 づき、できることできないことを家族に説明し納得しても らっている。痰の除去や経管栄養などは対応が困難である が、インスリンの自己注射などできる限り対応できるよう 支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急講習会を消防の協力のもと施設にて行い、出来る限り多くの職員が参加し、事故発生時に備えて実践力を身に付けるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の火災訓練のうち、1回は消防立会いのもと訓練を行い指導いただいている。今後は地震を想定した訓練や隣接する特養との協力体制の確立が必要と感じている。 (外部評価) 併設の特別養護老人ホームとは連携を密にし、お互い協力し合うよう会議等で確認している。地域との連絡も密にしており、強固な連携が構築されている。また運営推進会議と防災訓練の同時開催を検討しており、災害時の連携に万全を期すよう努めている。備蓄は水を一人につき2ℓ、ドライカレーや五目御飯、おかゆなど30人分を3日分用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日頃から入居者のプライバシーへは十分配慮しながら支援を行っている。 また、写真等の掲載についても家族に確認をとり、掲載の許可をいただいた入居者のみホームページや施設便りに写真の掲載を行っている。 (外部評価) 呼び名については名字にさんづけにするよう全職員で確認している。洗濯物を届けるなど、入室が必要な場合は必ずノックをするよう配慮している。利用者が重度になっても、髪型や服装など自分らしさが保てるよう人生の先輩として尊重し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者が日々の生活の中で、思いや希望を表したり、自己決定できるよう言葉かけには十分配慮し支援するようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日頃から施設職員は、職員のペースで支援するのではなく、入居者、一人ひとりのペースを大切に支援するよう心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入居前に通っていた美容院の利用継続や、化粧品やお気に入りの衣装など要望があれば家族に協力いただき、持ってきていただくなど、その人らしい身だしなみができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事形態については、入居者の嚥下状態などを考え可能な限り適切な食事を提供するようにしている。 また、簡単な調理や片づけなど、本人の状態に合わせて協力いただいている。	
			(外部評価) 管理栄養士が作成した献立をもとに外注し、事業所で丁度いいように温めて提供しており、利用者から薄味で品数も多く美味しいと喜ばれている。各ユニットごとにホットケーキなどの手作りのおやつを作り満足してもらっている。誕生日はちらし寿司や天ぷらなど好きなものをリクエストすることができる。利用者には下膳などできることを手伝ってもらうなど、昼食時は和やかな雰囲気に包まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事は外注により、管理栄養士の管理のもとバランスのとれた食事を提供している。 水分摂取についても細かく記載し、一日に必要な水分量が摂取できるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後確実には行えていないが、本人の能力に応じて口腔ケアを支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 各入居者に合わせたトイレ誘導を行うことにより、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
			(外部評価) 紙パンツやパット使用の必要性等について、利用者一人ひとりの状態を適確に把握し、排泄自立に向けた支援に努めている。チェック表により排泄パターンを把握し、トイレでの自然排泄を目標に、利用者の生きる意欲が向上し自信が回復することを目指しケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘気味の入居者に対しては、朝食後のトイレ誘導や運動など働きかけ、個々に応じた便秘予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本週3回の入浴機会を確保しているが、本人希望や散髪後等は臨機応変に対応している。	
			(外部評価) 同性介助の希望や入浴時間の好みなど、利用者一人ひとりに合わせて対応している。バイタルチェックを午前か午後に入浴時間に応じ測定し、利用者が安心して入浴できるよう支援している。座位が取れる程度でも改造した特殊浴槽で入浴できるなど、利用者全員が最低でも週2回は入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 各個人の生活リズムに応じて休息支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の変更等あれば、申し送りにて周知を図っているが、全ての薬を把握するまでは、至っていない。 重要な薬については、目的・副作用・用量・用法について把握できている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 役割については、入居者各個人の能力に合わせて、担ってもらっている。 楽しみごと、気分転換等については、カラオケや買い物、作業レク等行っているが、満足のいくものを提供できているとはいえない。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節に合わせた外出や買い物等、本人の希望に合わせて支援するようにしているが、施設周辺の坂道等も影響し、日常的な散歩等は行えていない。 (外部評価) 法人内の公用車を利用し、神社への初詣や海沿いの海浜レストランに外食に行ったり、近くの景色の美しい公園に弁当を持って出かけている。また香川県のテーマパークや愛媛県美術館まで行くなど、利用者の希望に応じた外出支援に努めている。	事業所内で一日中過ごすことのないよう、利用者が毎日少しでも外の空気を吸う時間を作ることに期待したい。また天気の良い日にはベランダでの花植えや草引きなど、利用者が外出を楽しめるような取組みを考えて欲しい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的に金銭については、施設管理としているが、可能な方には、職員の見守りのもと、買い物時に本人に支払いをしていただけるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居者の希望に合わせて、電話の取り次ぎなどの支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間には、入居者手作りの季節の貼り絵や花を飾り、居心地の良い空間になるよう音や温度についても配慮している。	
			(外部評価) リビングからは大パノラマが展開され素晴らしい景観である。歩行練習ができるほど廊下が広く、利用者もゆったりした気分になれる。畳スペースなどでは洗濯物を畳んだり新聞を読んだり、利用者が思い思いの場所でのんびりしている。壁面には3月のひな祭りの作品が飾られるなど季節感たっぷりである。またきれいに掃除が行き届いており、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングでは、仲の良い方話ができるよう考えた座席配置を行っている。 また、廊下にもソファを置き、居室以外にも他の入居者と少し離れて休める場所用意している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者が居心地良く過ごしていただけるよう家族にも協力を依頼し、馴染みも置物や家族写真を飾るなど、各入居者に合わせた居場所づくりを行っている。	
			(外部評価) 写真入りカレンダーや色紙などを飾ったり、テレビなど自分の好みのものを持ち込み、利用者が落ち着いて過ごせるようになっている。季節の変わり目など衣替えの時期には、家族に電話して持ってきてもらうなど協力が得られている。家族の来訪時には会話が弾むなど、楽しいひと時を過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 施設内はバリアフリーとなっており、また必要な場所への手すりや椅子の設置により、安全に過ごしていただける環境となっている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500394
法人名	社会福祉法人宝集会
事業所名	グループホーム集い
所在地	愛媛県新居浜市東田3丁目乙11-86
自己評価作成日	平成 29年 1月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 29 年 2 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にもあるように『心』から『歓』びあえる楽しく和やかな処になるよう、入居者様のペースで、日々の生活を支援させていただいています。
また、運営推進会議には多くの地元有識者の皆さんや地域包括支援センターの職員が積極的に参加して下さっており、行事報告や困難事例、事故報告に対し多くの助言をいただき、その助言を日々の支援に反映させることにより、サービスの質の向上につなげることができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

風光明媚な高台にある事業所は、周りの景色が美しく心癒される。自治会に入会し、地域の草刈りには男性の職員が積極的に参加し喜ばれている。運営推進会議の参加者から、地域貢献等にかかる意見等が出され、管理者はそれを真摯に受け止めステップアップを目指し次の企画に活かせるよう努めている。職員は年齢差があっても仲良く和気あいあいと、利用者に対しても親しくかつ礼節を持って対応し、楽しく過ごせるよう支援している。代表者や管理者は職員からの要望等があれば前向きに検討し、安心して安全な介護ができるよう配慮がある。利用者一人ひとりをよく観察し、良いところを見つけ何を必要としているのか利用者視点で考え、家族の大切な要望も考慮し介護計画に盛り込むなど、残存能力を活かし望みが叶えられるようなケアを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム集い

(ユニット名)

歓ユニット

記入者(管理者)

氏 名

新井 悟

評価完了日

平成 29年 1月 20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所理念は玄関に掲げ、管理者と職員は理念を共有し、実践につなげるよう心掛け、日々の支援を行っている。 (外部評価) 元施設長が考案した「心からうれしく心から歓びあえる楽しく和やかな処」の理念は、職員はもちろん運営推進会議でも話しており、共有し実践している。2つのユニット名を「心」「歓」にしており、地域との関わりにも力を注ぎ、理念に沿って業務に励んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 開設以来、地元自治会に入会するとともに、自治会活動への職員の参加や地域行事への施設入居者参加を積極的に行うようにしている。 また、今年度より夕涼み会を施設で行い、地域の方をお招きするなど、事業所が地域の一員として受け入れられるよう取り組んでいる。 (外部評価) 高台にある事業所周辺の草刈りと男性職員が草刈り機を持参し行い喜ばれている。地域の方に楽しんでもらえることや喜んでもらえることはないか常に考え、夕涼み会などで自治会との交流が図れるよう計画している。また、とうど祭りに参加したり、敬老会や誕生会ではボランティアによる浪曲や漫談があるなど、利用者が楽しい時間を過ごせる機会が増えるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方からの電話相談や施設見学には随時対応し、入居に至らないケースでも、相談者の不安が少しでも取り除けるよう対応している。 地域の方に向けての勉強会の開催などは行っていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議には多くの地域役員や民生委員の方に参加 いただき、事故や施設運営についても多くの意見をいた だき、頂いた意見を運営に活かしている。 ただ、前回の指摘事項でもある家族の参加については、 思うような参加が得られていないのが現状である。 (外部評価) 運営推進会議の参加者からの意見や提案により、ボラン ティアの訪問や夕涼み会の開催に繋げることができるな ど、効果が表れている。出席者の都合に合わせて日曜日の 開催にしたり、併設施設のスケジュールと重ならないよ う時間差をつけるなど配慮している。業務の都合で職員 の参加は困難なため、会議の内容は議事録で確認し共有 している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 地域包括センター職員さんには運営推進会議に参加いた だき、指導いただいている。 また、市役所にて生活保護受給者の相談等もさせていた だくなど、連携を密にとるようにしている。 (外部評価) 介護相談員が2か月に1回来訪し、利用者から「心配事 や不安はありませんか?」「言いづらかったり、伝えに くいことはないですか?」など聞き取り、書面で報告を 受けている。生活介護課より年2回利用者との面接があ る。相談に出向くこともあり、課題解決に向け話し合い 共に取り組んでいる。市主催の地域貢献や相談等の研修 会に参加するようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束については行っていないが、『指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為』について、全職員が 正しく理解するまでには至っていない。 (外部評価) 入居間もない利用者は帰宅願望等があり、玄関の施錠に 閉塞感や心理的な不安がみられることがあるため、管理 者をはじめ職員全員で十分留意し、ドライブをしたり家 族と電話するなど、利用者の気持ちが落ち着くよう努め ている。また安眠薬を使用の利用者には昼間はなるべく 運動してもらうなど、薬の使用を控えるよう努めてい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止については、特に職員数の少なくなる夜間について職員による相互監視を行い、虐待行為が発生しないよう取り組んでいる。 高齢者虐待防止法については、身体拘束同様に全職員が正しく理解するまでには至っていない。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度を利用されている入居者がいる関係で、以前に比べ制度について理解度は高くなったが、詳しく、また正しく理解するには至っていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約までには十分な時間を確保し、家族の不安や疑問点が解消されるよう説明・納得を図っている。 また、改定等についても同様に十分な説明を行うようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置したり、運営推進会議には家族に参加いただけるよう案内をさせていただいているが、意見箱、運営推進会議ともに入居者及び家族の意見反映には活かされていない。 (外部評価) 家族の面会時に利用者の状況を伝え、意見や要望を聞いている。「風呂が好きです」「散歩させてください」などの要望がある。遠方の家族には電話で利用者の日頃の様子などを伝えている。受診時など楽な格好の服装を要望する家族の期待に沿えるよう、職員全員で取り組むなど、利用者本位の支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月一回のスタッフ会には管理者も出席し、職員からの意見を聞く場を設け、活かせる意見であれば、運営に活かすようにしている。 (外部評価) 管理者は職員にとって話しやすく相談にも快く耳を傾けてくれるため、働く意欲向上につながっている。休暇を取りやすいよう配慮したり、職員のストレスが極力軽減できるよう事業所全体で取り組んでいる。家族に了解を得て使用しているセンサーマットを即決で購入できるなど、安全安心な介護を実践しやすいよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者及び管理者は、職員個人個人の評価を話し合い、給与水準に反映させている。 また、各職員が向上心を持って働けるように、労働時間等の条件についても話合っている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者や管理者は、職員を愛媛県地域密着型サービス協会主催の研修に主に参加させているが、職員の希望により他主催の研修にも積極的に職員を派遣している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 今年度より、地域密着型サービス協会主催の相互研修に職員参加させるなど、同業者との交流を通じてサービスの質を向上させられるよう取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の事前アセスメントにて、本人の要望・困っていること等の把握に努め、サービス開始の段階で出来るだけ不安なく過ごしていただけるよう関係づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス開始時には、十分な時間を確保し家族の要望や不安に思っていることなどを聞くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居ありきではなく、まず本人と家族が何に困っているかを把握したうえで、本人や家族にとって今何のサービスが必要であるか見極め、利用支援を行うように心がけている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 個々人のレベルに合わせた役割・手伝いをしていただくことにより、本人を介護される一方の立場におかず、共に暮らす者同士、助けあう関係を作るようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族にも協力していただけることはしていただき、本人と家族の関係を大切にしながら、共に本人を支援していく関係づくりを心掛けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の馴染みの店等がある場合は、家族等の協力のもと継続利用を行い、馴染みの場所や人との関係が途切れないよう支援している。 (外部評価) 利用者の重度化が進み、支援が困難になってきているが、昔から利用している理髪店やマッサージ店に行けるよう送迎したり、友人に誘われて四国八十八ヶ所にお参りすることが好きだった利用者の支援に努めるなど、培ってきた人間関係を守りながら断ち切らないよう努力を重ねている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 作業レク等では、本人の能力に応じて役割を分担するなど、入居者同士が助け合い、協力し合えるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用（契約）が終了しても、必要に応じて本人や家族の相談・支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時に思いや希望の把握に努めているが、入居後も家族や知人に情報をいただき、意思の疎通が困難になった場合でも、本人本位の生活が送れるよう常に情報収集に努めている。 (外部評価) ごみ集めをしたり、食卓のテーブルを拭いたり朝刊を取りに行くなど、職員が利用者一人ひとりのできることを見守りながら一緒に行っている。利用者が選択できる機会と自己決定できる場面を作っているほか、利用者がストレスを感じないよう席順にも配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前や入居時に本人や家族から情報をいただき把握に努めているが、急いで入居の場合も多く、十分とはいえない場合も多い。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ユニット会等で各入居者について情報を共有し、入居者の現在の状況把握を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画やモニタリングは、ユニット会で出た全職員の意見を参考に計画作成担当者が作成しており、現状に即した介護計画となるよう努めている。 (外部評価) 家族からの意見として「怪我をしないようにしてほしい」「仲良く楽しく過ごしてほしい」などある。介護計画は、利用者とかかわりの深い職員が計画作成担当者になり作成している。月に1度の全体会と各ユニット会で利用者の最近の状況等を報告し、見直し等について検討している。介護計画は職員全員で共有し、言葉や表情、しぐさなど個別記録として残している。管理者は現場を大切に考え、気づきなど話し合う機会を多く持つようにしており、協議内容については申し送りノートに記録し共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日常の個別記録を基に申し送りを行い、職員間で情報を共有するとともに、実践や介護計画につなげている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の希望があれば、個別の買い物や馴染みの店への外出支援、冠婚葬祭等への送迎など臨機応変に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のイベントには参加し、地域の一員として楽しい生活が送れるよう支援しているが、地域資源の把握・活用については十分とは言えない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医は入居時に変更するのではなく、継続して いただいている。また、基本的には受診は家族にお願 いしているが、必要に応じて職員が同行し、適切な医療が 受けられるように支援している。	
			(外部評価) 重度の利用者が多いため、職員が付き添い受診してお り、結果は家族とも共有している。歯科は状態に応じて 受診し往診も可能である。定期的な血液検査、眼科や皮 膚科など必要に応じ適切な医療が受けられている。イン フルエンザの予防接種や手洗い、うがいなどを励行し感 染症予防にも努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常勤職員として看護師を配置しており、職員の気づきや 相談にすばやく対応し、個々の入居者が適切な看護を受 けられるよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入居者が入院した場合は、情報提供票を病院へ提出し、 本人が安心して治療に専念できるように病院関係者との 情報交換や相談に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時には重度化した場合や終末期の対応について、事 業所として出来る事、出来ない事を十分説明し同意書を いただくようにしている。	
			(外部評価) 「入居者の重度化した場合における対応に係る指針」に 基づき、できることできないことを家族に説明し納得し てもらっている。痰の除去や経管栄養などは対応が困難 であるが、インスリンの自己注射などできる限り対応で きるよう支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急講習会を消防の協力のもと施設にて行い、出来る限り多くの職員が参加し、事故発生時に備えて実践力を身に付けるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の火災訓練のうち、1回は消防立会いのもと訓練を行い指導いただいている。今後は地震を想定した訓練や隣接する特養との協力体制の確立が必要と感じている。 (外部評価) 併設の特別養護老人ホームとは連携を密にし、お互い協力し合うよう会議等で確認している。地域との連絡も密にしており、強固な連携が構築されている。また運営推進会議と防災訓練の同時開催を検討しており、災害時の連携に万全を期すよう努めている。備蓄は水を一人につき2ℓ、ドライカレーや五目御飯、おかゆなど30人分を3日分用意している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日頃から入居者のプライバシーへは十分配慮しながら支援を行っている。 また、写真等の掲載についても家族に確認をとり、掲載の許可をいただいた入居者のみホームページや施設便りに写真の掲載を行っている。 (外部評価) 呼び名については名字にさんづけにするよう全職員で確認している。洗濯物を届けるなど、入室が必要な場合は必ずノックをするよう配慮している。利用者が重度になっても、髪型や服装など自分らしさが保てるよう人生の先輩として尊重し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者が日々の生活の中で、思いや希望を表したり、自己決定できるよう言葉かけには十分配慮し支援するようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日頃から施設職員は、職員のペースで支援するのではなく、入居者、一人ひとりのペースを大切に支援するよう心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入居前に通っていた美容院の利用継続や、化粧品やお気に入りの衣装など要望があれば家族に協力いただき、持ってきていただくなど、その人らしい身だしなみが出来るよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事形態については、入居者の嚥下状態などを考え可能な限り適切な食事を提供するようにしている。 また、簡単な調理や片づけなど、本人の状態に合わせて協力いただいている。 (外部評価) 管理栄養士が作成した献立をもとに外注し、事業所で丁度いいように温めて提供しており、利用者から薄味で品数も多く美味しいと喜ばれている。各ユニットごとにホットケーキなどの手作りのおやつを作り満足してもらっている。誕生日はちらし寿司や天ぷらなど好きなものをリクエストすることができる。利用者には下膳などできることを手伝ってもらうなど、昼食時は和やかな雰囲気にも包まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事は外注により、管理栄養士の管理のもとバランスのとれた食事を提供している。 水分摂取についても細かく記載し、一日に必要な水分量が摂取できるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後確実には行えていないが、本人の能力に応じて口腔ケアを支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 各入居者に合わせたトイレ誘導を行うことにより、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
			(外部評価) 紙パンツやパット使用の必要性等について、利用者一人ひとりの状態を適確に把握し、排泄自立に向けた支援に努めている。チェック表により排泄パターンを把握し、トイレでの自然排泄を目標に、利用者の生きる意欲が向上し自信が回復することを目指しケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘気味の入居者に対しては、朝食後のトイレ誘導や運動など働きかけ、個々に応じた便秘予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本週3回の入浴機会を確保しているが、本人希望や散髪後等は臨機応変に対応している。	
			(外部評価) 同性介助の希望や入浴時間の好みなど、利用者一人ひとりに合わせて対応している。バイタルチェックを午前か午後の入浴時間に応じ測定し、利用者が安心して入浴できるよう支援している。座位が取れる程度でも改造した特殊浴槽で入浴できるなど、利用者全員が最低でも週2回は入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 各個人の生活リズムに応じて休息支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の変更等あれば、申し送りにて周知を図っているが、全ての薬を把握するまでは、至っていない。 重要な薬については、目的・副作用・用量・用法について把握できている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 役割については、入居者各個人の能力に合わせて、担ってもらっている。 楽しみごと、気分転換等については、カラオケや買い物、作業レク等行っているが、満足のいくものを提供できていないとはいえない。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節に合わせた外出や買い物等、本人の希望に合わせ支援するようにしているが、施設周辺の坂道等も影響し、日常的な散歩等は行えていない。 (外部評価) 法人内の公用車を利用し、神社への初詣や海沿いの海浜レストランに外食に行ったり、近くの景色の美しい公園に弁当を持って出かけている。また香川県のテーマパークや愛媛県美術館まで行くなど、利用者の希望に応じた外出支援に努めている。	事業所内で一日中過ごすことのないよう、利用者が毎日少しでも外の空気を吸う時間を作ることに期待したい。また天気の良い日にはベランダでの花植えや草引きなど、利用者が外出を楽しめるような取組みを考えて欲しい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的に金銭については、施設管理としているが、可能な方には、職員の見守りのもと、買い物時に本人に支払いをしていただけるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居者の希望に合わせて、電話の取り次ぎなどの支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間には、入居者手作りの季節の貼り絵や花を飾り、居心地の良い空間になるよう音や温度についても配慮している。 (外部評価) リビングからは大パノラマが展開され素晴らしい景観である。歩行練習ができるほど廊下が広く、利用者もゆったりした気分になれる。畳スペースなどでは洗濯物を畳んだり新聞を読んだり、利用者が思い思いの場所でのんびりしている。壁面には3月のひな祭りの作品が飾られるなど季節感たっぷりである。またきれいに掃除が行き届いており、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングでは、仲の良い方話ができるよう考えた座席配置を行っている。 また、廊下にもソファを置き、居室以外にも他の入居者と少し離れて休める場所用意している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者が居心地良く過ごしていただけるよう家族にも協力を依頼し、馴染みも置物や家族写真を飾るなど、各入居者に合わせた居場所づくりを行っている。 (外部評価) 写真入りカレンダーや色紙などを飾ったり、テレビなど自分の好みものを持込み、利用者が落ち着いて過ごせるようになっている。季節の変わり目など衣替えの時期には、家族に電話して持ってきてもらうなど協力が得られている。家族の来訪時には会話が弾むなど、楽しいひと時を過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 施設内はバリアフリーとなっており、また必要な場所への手すりや椅子の設置により、安全に過ごしていただける環境となっている。	